

## 財務の概要

令和5年度は、引き続き施設将来計画を着実に実行した。令和元年度より着工している巴研究教育棟の増築工事を予定どおりに進めた。また、足立医療センター完成に伴う旧東医療センター、および旧掛川キャンパスの解体を行い、ともに完了した。

収支面では、新型コロナウイルス感染症が第5類に引き下げられたことに伴う補助金の減少や、これまでの患者数の減少に対する回復が見られず、大変厳しいものであった。

収入に関しては、外来患者数の減少や病床稼働率の低下等により、医療収入が昨年度比で12億2千3百万円の大幅な減収となった。1日平均の患者数を昨年度と比較すると、本院は外来が167人、入院が32人の減少、足立医療センターは外来が8人、入院が6人の減少、八千代医療センターは外来が48人、入院が33人の減少となった。

支出に関しては、経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じ、引き続き徹底的な経費削減に強く取り組んだ。その結果、人件費は賞与の支給率を引き上げたが、人員数の減少等により支出が抑えられ、予算を7億3千6百万円下回った。しかし、経費については、近年の社会情勢の変化を背景とした物価高騰や光熱費の上昇により、コストが年々増加傾向にある。

以上により、基本金組入前収支差額は予算を61億2千万円下回る60億4千2百万円の支出超過となった。